

吸実性カメムシ類情報第1号（ダイズ）

令和7年9月2日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病虫害防除室

予察灯のミナミアオカメムシの誘殺数はやや多い状況です

1 発生状況

8月下旬に県内9地点18ほ場（ダイズ）で行った巡回調査において、吸実性カメムシ類の発生量は100株あたり平均0.00頭（平年0.34頭、前年0.22頭）で、過去10年と比較して、やや少ない状況でした（過去10年で0頭の年は本年を除いて2年ある）。

しかし、県内に設置した予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺数はやや多い状況です（図）。今後、水稻収穫済みの水田から近隣のダイズほ場へ移動する可能性があるため、注意が必要です。

2 吸実性カメムシ類について

主な種はミナミアオカメムシ（写真1、2）、イチモンジカメムシ、ホソヘリカメムシ等です。

吸実性カメムシ類はダイズの子実を吸汁加害し、その被害はダイズの生育ステージにより異なります。

莢伸長初期から子実肥大初期の被害としては、莢の発育不全による落下や、子実が肥大しない板莢の発生等があります。

子実肥大中期以降の被害は、奇形粒、変色粒であり、品質の低下につながります。

また、吸実性カメムシ類による加害が著しい場合、子実への養分の転流が進まないため、茎葉が緑のまま落葉しない「青立ち」を引き起こすことがあります。

3 防除対策

表を参考に子実肥大初期（開花30～40日後）に防除を行いましょう。その後も発生が続くようであれば、7～10日後に再度防除を行いましょう。

表 だいの吸実性カメムシ類に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	使用方法	本剤の使用回数	IRACコード
トレボン乳剤	収穫14日前まで	散布	2回以内	3A
キラップフロアブル	収穫7日前まで	散布、 無人ヘリコプターによる散布	2回以内	2B
スタークル液剤10	収穫7日前まで	散布、 無人航空機による散布、 空中散布	2回以内	4A

使用回数は同一成分の剤を含む成分ごとの総使用回数に注意する。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示し、詳細は、

https://www.croplifejapan.org/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdf を参照する。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守り、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。



写真1 ミナミアオカメムシ成虫



写真2 ミナミアオカメムシ幼虫

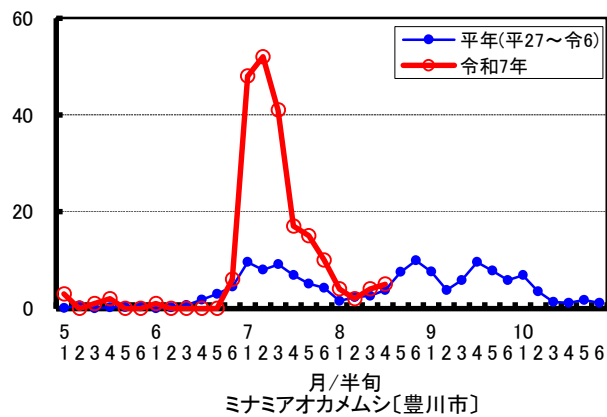
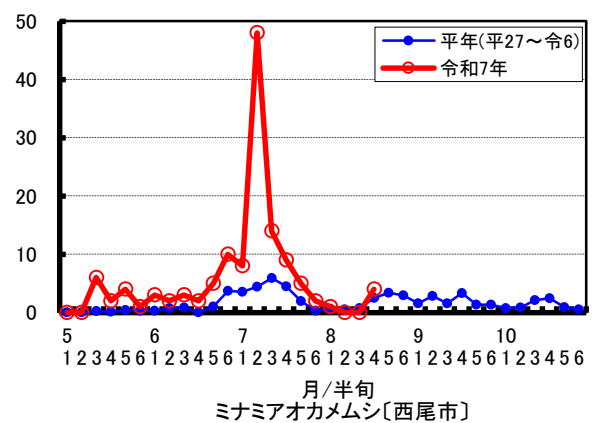
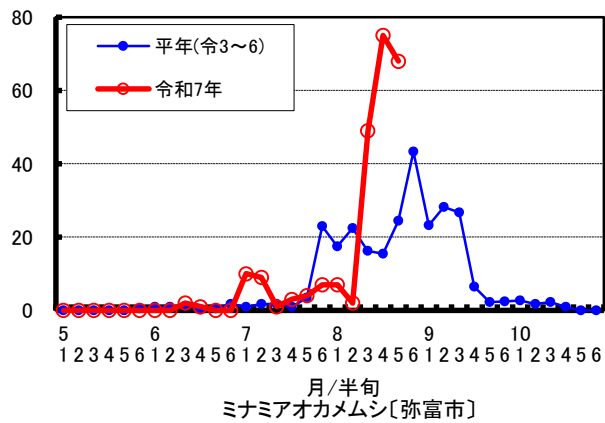
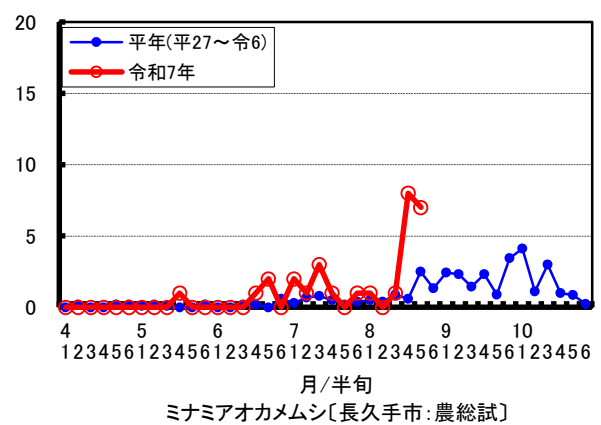
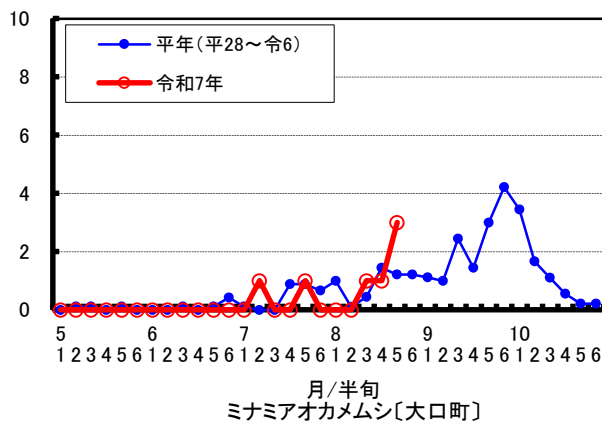


図 予察灯におけるミナミアオカメムシの誘殺状況（単位：頭）